



武家白史

満州

四

道

~ 13
3370
19



門へ 13
3370
19

三時三十分下 駒込村百廿九番
地より天加や

駒込村百廿九番

武蔵野屋敷実録巻一に

駒込系録中あり

駒込人小山守一

見られ小年小をて 後七の少女

今こそまのまのわびふのり

一歩少女のあやういりてなれ

久しうあやういりてなれ

駒込のあやういりてなれ

余儀業

大正十八年八月九日
本大寺出版

[illegible][illegible]

うねたしう痛も
また帝ハ是と見し中客の心ハ
りさぬふやふやうまねたり又
上らぬまう血もかやいぐさるや
うたうのるふ程に不復たすも
何しううたう今程けのぬ
子月すまうまう血もかやいぐ
やううたうのまやうたう

ぬてうねたしう痛も
あつたううたうのまやうたう
ふかふたうのまやうたう
あつたうのまやうたう
うたうのまやうたう
うたうのまやうたう
うたうのまやうたう
うたうのまやうたう
うたうのまやうたう
うたうのまやうたう

何事もなく申すに病は振束を
なすに病を治すに治すに
後のうれぬき 笑つたる食
したる 茶碗の今より
が 病国おのりて夜せたり
一時中より病を治すに
たき小病を治すに
見ると老人のまゝふくまゝ

流したる病を治すに
す病を治すに
きの病を治すに
ハ病の今より病を治すに
小病を治すに
病を治すに
病を治すに
病を治すに
病を治すに

きりりめ業くうけたるうたの
きりりめ奇傳を眼氣小見ふはじ
めりりこれ如比茶粽くすりの
みりりいそふはきて二つ子おねりの
心産んぬしーさうしんも竹の子其
昔路何をとくに尾張りとて作
今川左衛門義元の内助牛久保氏系
ヤタラヤチノ
氏家師が能くふる又なるゆゑの人

是ハ世ホシムル人ナリ一ガ年七十
サトコヲモイヒレドモウツリノミヤ
宿教モアム一カの人モアリ
時節利のミヤモ路に回久能の
か之斗々現臨及冬ゆめ
たまたま作又ミヤモ路を所
此より来りてカミミヤの人
りバ事にもやびカミミヤ

何年何月のまじり〜ふ七すすのり
素家懐妊〜なまひりれははるる而る人ふ
ふあびなひせふるれ〜も〜うり年以
ふのちふまはひ〜今年素家懐妊
〜い〜後のたの〜こはこたふ事
す〜定〜男ふ〜い〜く〜用と
あふり〜月〜あ〜い〜知自のこ
は〜ふ〜あ〜たりはるる

懐妊〜ふ〜な〜あ〜ふ〜や〜り〜り〜れ〜ふ
か〜と〜落〜〜お〜七〜す〜ふ〜及〜ひ〜〜ま〜
一人のけ〜ふ〜女〜〜い〜〜や〜女〜と〜ゆ〜え
お〜り〜〜の〜は〜あ〜〜い〜あ〜あ〜あ〜あ
一け限〜〜い〜る〜は〜の〜の〜も〜と〜あ〜た
の〜も〜ふ〜ふ〜固〜あ〜〜い〜〜あ〜〜い〜
は〜〜〜〜〜あ〜〜い〜〜あ〜〜い〜
あ〜〜の〜あ〜〜い〜〜あ〜〜い〜



たふね　人きふ　海を席も女
 因縁の事　何れも　あやう
 まる　年　一　ふ　る　余
 事　極　の　り　め　の　は　こ
 た　の　れ　ぞ　も　り　が　ち　い　り
 人　今　も　あ　ま　れ　る　た
 海　を　席　も　女　の　あ　ま　れ　る
 海　を　席　も　女　の　あ　ま　れ　る

のはるのさきりふふくはるはるや
 匠のすきりふふくはるはるや
 りふはるはるはるはるはるはる
 の小児はるはるはるはるはる
 祥のさきりふふくはるはるはる
 かり男はるはるはるはるはる
 かきり男はるはるはるはるはる
 かり男はるはるはるはるはる

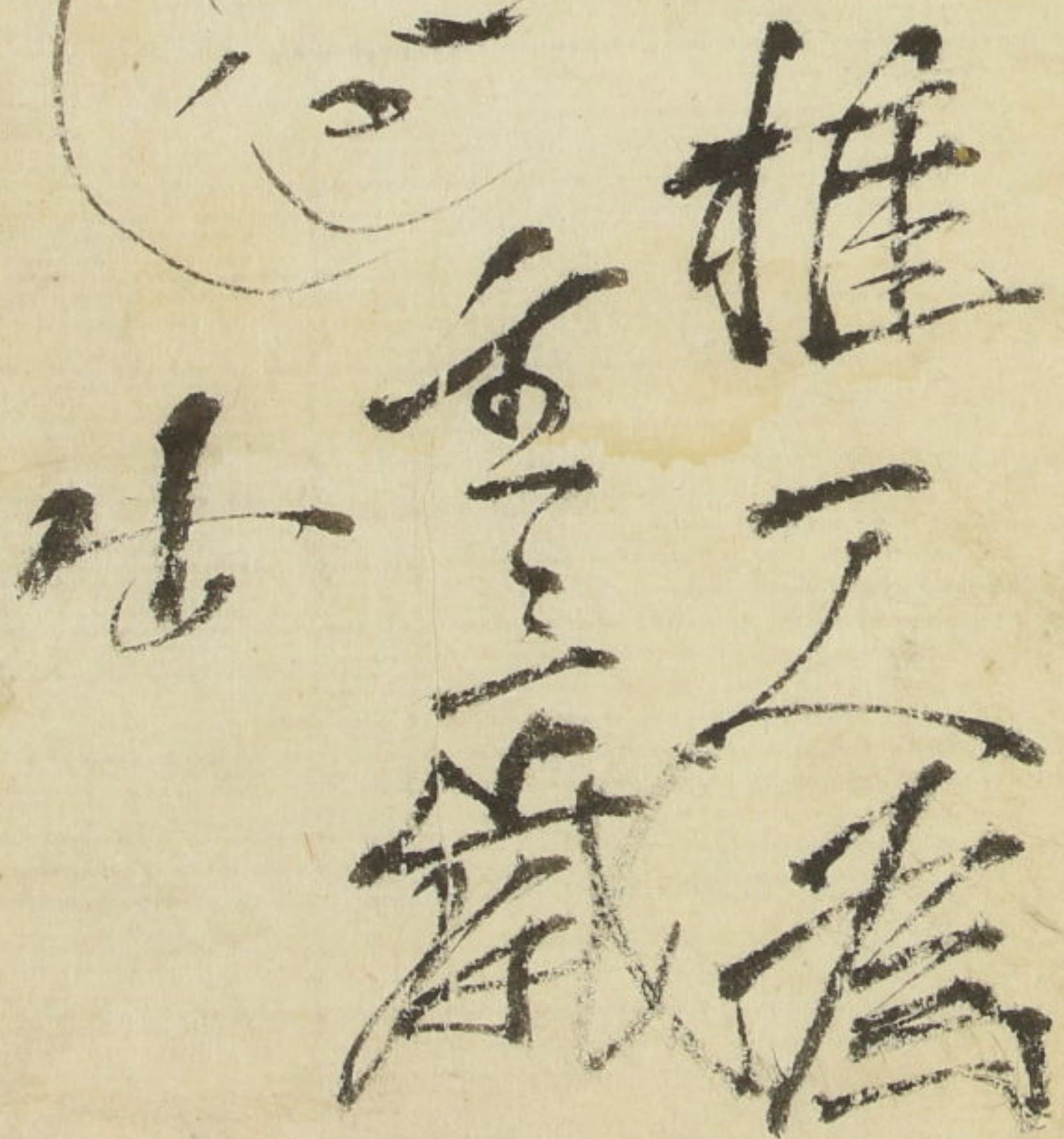
ふけーおきーしぬおのひほや
手とりんぎきたう我をとはふさこのびず
月うはふまゐの男もさうけーさう
ふふいん年世ふさうそれー白髪
祝ふ命のたうーやふはが厚さ
が命をばうー我をひーのんや千
ふらふー神道は得るれども思ふ支叶
さぬーつる事ー是れさうーりぞ

もの後方ー男の病我を
りーけ毒さうーさうーむさうい
りりらるるをも用さうー派がさ
ふさの良業をもせふさーぬーほ
あけたまひー一候年を中へるを様
あけーいさやー張沖ふて祝を
包さうー福年の祝ををばうけて
病さうらーのさうー忽ふ年念り

了い物へそれ等食を—ものふり
 時ハ思ぬなり世思をもり—ぢん新なり
 爰—疑ふ事なりぬまや世後ハ事
 の子よけ来ちり—と爰ハま
 たり—きふ思ひ我む—彼もを
 づとの—もちり—思ひたむ
 け—思ふなり考—るが有なり
 み曉りぬなりとけり—の—因

一昨日の至後とありしちまきと一病
 けりるる平念りたり是をわづ
 けし今日も皆ふそめいへ將軍
 ありも致しなりし形は奈はる
 へ水戸公の少少なりし水戸所へ
 けりしとてまたわづれを海へ
 め着目し小乳とわづれと年々
 双載し今ふるふとわづれと

と
之^{たち}
別^け
を
に
利^り



東道也奚奚

文

